

企業訪問 資源循環レポート

(株) テクア 半田事業所

下水道汚泥から有機肥料を製造、

国内外から注目を集める

中間処理施設

(株) テクア 半田事業所



株式会社テクア 半田事業所

■代表者／平村成一

■所在地／愛知県半田市潮干町1番地25

TEL : (0569) 29-1110 FAX : (0569) 29-1140

昭和30年 常滑清掃社として発足、半世紀にわたり環境衛生事業を推進し、全国各地で「現場第一」「元気印」をモットーに、水処理関連事業を主として環境保全および循環型社会構築に力を注いでいます。昭和55年 常滑市、平成22年・27年 愛知県より表彰を受け、業界の社会的地位向上に貢献されています。

半田事業所は平成25年に産業廃棄物中間処理施設として創設され、下水道汚泥の有効利用を目的として肥料の生産に取り組んでいます。

[施設概要]

- ・敷地面積 6,825㎡
- ・事業区分 発酵（中間処分）
- ・処理能力 汚泥 10.1t/日
動植物性残渣・紙くず・木くず等 約2.3t/日
- ・生産物 Tパワー堆肥（汚泥発酵肥料）



事業所の説明をする渡辺所長

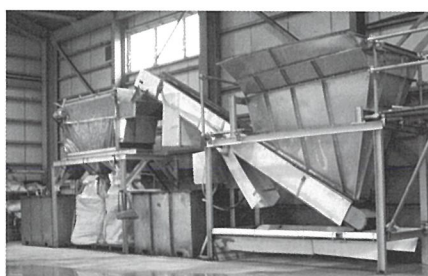
半田事業所は境川近くの工業団地の一角に建設され、周辺には大規模工場が林立しています。事業所内では汚泥処理を行うため臭気対策に注意を払い、近隣企業へ事業説明会を開くなど、周辺環境への配慮も含め新規事業への抱負について渡辺所長にお話を伺いました。

事務所棟の会議室で工場見学の資料を頂き、会社紹介のスライドを拝見しながら説明を受けました。

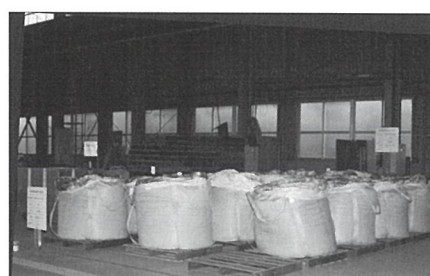
下水汚泥は、多くをセメント原料として再生され



発酵機2基（クリーンコンポC-90ET）



フルイ機



フレコンに入れられた有機肥料

ていますが、肥料の原料としても着目され、緑農地化の推進の一翼を担っています。（株）テクアは下水処理場等から処理を受託し、下水道汚泥を有機肥料に再生し農家へ販売しています。

ハードルの高い下水道汚泥の肥料化

この事業を始めて3年目になりますが、原料は県内の下水汚泥です。「Tパワー堆肥」という名称で製品化し、普通肥料（農林水産大臣発行の登録証が必要、成分保証要）として販売しています。また事業として成立するためには、産業廃棄物処理業として廃掃法に準拠すること、肥料取締法に準拠した肥料を製造することが必要です。そのため成分については3～4か月に1回の自主分析を行い、お客様に提示しています。

独自の技術と臭気対策

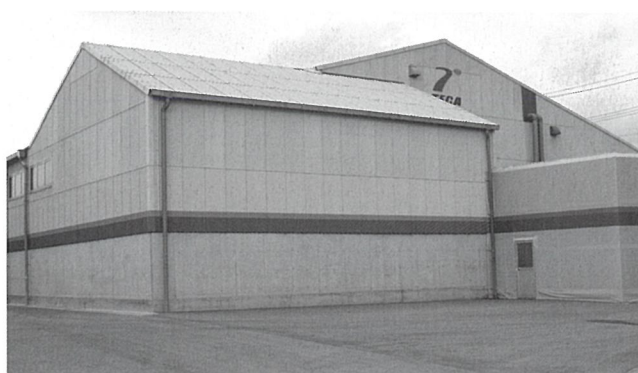
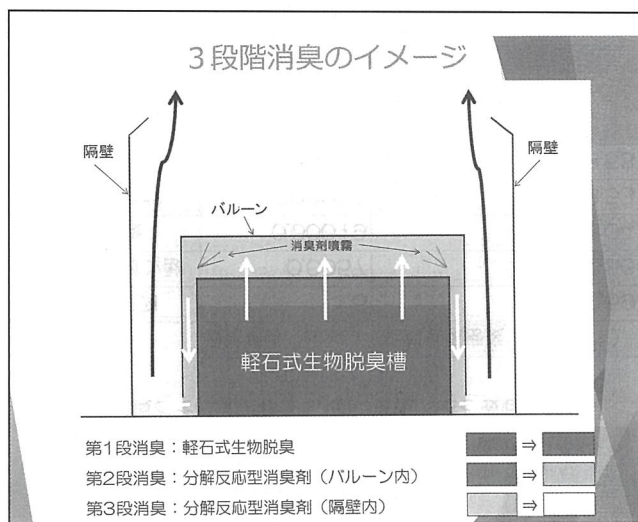
原料の汚泥は発酵施設の建屋に格納し、扉は自動高速シャッターで閉められ臭気漏洩防止が行われます。発酵施設には2基の発酵機があり、汚泥を肥料にするための作業が行われ、発酵による減容率は約8割で、取出量2割が肥料になります。

発酵機は送風機能付攪拌羽根が装着され、外気を取り込みながら全体を攪拌し、好気性の微生物を使って発酵を進めます。機内の温度は65度前後まで上昇し原料は滅菌されますが、臭気の発生は否めません。そのため消臭にはとても配慮しており、軽石式生物脱臭槽を経由して二段階に消臭剤と反応さ

せた後に大気へ放出します。

出来た肥料はフレコンに封入し、一時保管したあと出荷しています。

半田事業所は少人数で月に約200トンの原料を取り扱い、コストパフォーマンスに優れた運営をしており、海外からの見学者も多く、独自技術を持つ事業所といえます。



発酵機建屋全景